



僕とインコ

二年 山崎秀太

僕は、二年前にセキセイインコを飼い始めました。最初は、インターネットの動画サイトを見て、ハムスターがとてかわいかったので、僕の誕生日にかつてもらうことにしました。でも、ハムスターは二年くらいで死んでしまうので、もつと長生きをするセキセイインコを飼うことにしました。店に行って一番元気なヒナを選びました。ところが、かうときに誓約書を見せられ、署名するように言われました。その文には、きちんとペットのめんどうを見ることや最後まで責任を持つて飼うことなどがかかれていました。僕は軽い気持ちでセキセイインコを飼うことに決めたのに、僕は命の重さを実感させられました。署名をしていろいろな道具やエサをかって帰りました。家に帰ってさっそくヒナにエサをあげました。ヒナは僕を見るとすぐにエサがほしいのかよく鳴くようになりました。とてもかわいので、僕は毎日エサをあげました。ヒナは成長して大人になりましたが、僕を見るとすぐによつてきて鳴くようになりました。毎日声をかけてあげるうち、突然人間の言葉をまねしてしゃべるようになりました。今では二十個くらいは単語を言えるようになりました。かごの中だけではかわいそうなので、一日に数回は家の中でかごからだしてあげます。とてもうれしそうにあちこち飛び回り、僕の

肩ののつてきます。ときにはおにごっこのようなことをして遊ぶようになりました。最初は軽い気持ちで飼いはじめた、セキセイインコでしたが、今では家族の一員で大切な僕の友達です。でも僕がふざけていじわるをしてしまうとすごい声でおこります。だけど、かわいがつてあげるととてもうれしそうにかわいい声で鳴きながらよつてきます。動物は、愛情を注いであげれば、同じように人間にかえしてくれることを学ぶことができました。インコは僕と遊びたくて毎日たくさん言葉で僕に話しかけてくれます。僕もいっぱい話しかけてかわいがつてあげたいと思います。

本当なら自然の中でたくさん友達や親と楽しくすごし、かわい子どももたくさん産まれていたかもしれません。人間の都合で鳥かごにいれられ、自由に空を飛ぶこともできません。そんなセキセイインコに僕はもうしわけなく思います。僕がいっぱいかわいがつてあげることがそのつぐないになると思います。セキセイインコが命あるかぎりできるだけ声をかけたり、外にだして飛ばしてあげたりしてかわいがつてあげたいです。

僕は、セキセイインコを飼うことで生き物の命の大切さやかわいらしさを知ることができました。このことをこれからの人生でいかしていけるようにしたいです。